

ミートインミト
Meet in Mito
～水戸で輝く人に会いに行く～

まちを形づくるのは、風景だけではなく、そこに暮らす人の力です。この連載では、市内で活躍する方の姿をとおして、地域の魅力と未来へのヒントを探ります。

問合せ▶みとの魅力発信課(☎232-9107)

02

常陸てまりと歩んだ60年

ふたかわ りょうこ
二川 良子さん

てまりとの出会い

色とりどりの糸を一針一針かがり、丸い球体に花や幾何学模様を咲かせるてまり。なかでも「常陸てまり」は、球体の一部に花芯かしんの種まで表現します。その繊細で温かな作品を、60年以上にわたり作り続けてきたのが、二川良子さんです。糸が織りなす立体的な模様は、見る人の心を惹きつけ、長年多くのファンを魅了してきました。

二川さんは、母親が周りの人にてまりづくりを教えているのを見て、一緒に学び始めたと言います。このことが、半世紀以上にわたる創作の道へとつながっています。

二川さんは母親から「人のために尽



くす」ことを大事にするよう言われていました。母からの言葉を胸に刻み、誰にでも丁寧にてまりづくりを教えてきた二川さんのもとには、その人柄に惹かれ、たくさん生徒が学びに訪れました。

広がる常陸てまりの魅力

平成10年に始めたてまり教室。翌年には初めての作品展を開催し、平成20年からは、「常陸てまり」の名で活動を続けています。

「これまでに関わった多くの方が、常陸てまりの魅力を広めてくれました」と語る二川さん。その言葉どおり、評判は人から人へと伝わりました。展覧会には多いときで千人を超える来場者が訪れ、二川さんたちが作る色とりどりの作品に、感銘を受けていました。



未来へ紡ぐ

令和8年3月に開催した第66回目の作品展をもって、長年続けてきた作品展は、幕を下ろしました。

今後の活動について二川さんはこう話します。「作品展は終わりましたが、今も生徒さんが私の家を訪ねてくれて、一緒にてまりづくりをしています。慕ってくる皆さんに感謝しながら、常陸てまりの灯を絶やさないよう、できることをしていきたいです」。

二川さんの手から生まれた常陸てまりは、たくさん生徒に受け継がれ、これからも人の心に花を咲かせ続けます。



二川さん(中央)と生徒の皆さん

